

# 普賢 Fugen

徒然寺報



発行所：天台宗高龍山明王院普賢寺  
発行人：普賢寺 広報部  
〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4  
電話 042-369-2278 / FAX : 042-336-2610  
URL : http://www.fugenji.com  
メール : info@fugenji.com



## 新年のご挨拶

新年になりまして、初めてご挨拶させて頂く方が多々いらっしゃるかと思いますが、立春も過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか。平成28年になりました。既に1ヶ月以上経ちました。皆様とお会いする春のお彼岸には、3月となります。過ぎ去る時の早さには驚くばかりでございます。

19世紀の哲学者ポール・ジャネーは、「時間の心理的長さとは年齢に反比例する」というジャネーの法則を提唱しています。

つまり、5歳の子供の1年間は、60歳の大人の1年間よりもずっと長く感じるというものです。この根拠というものが、「新鮮な経験が多いほど、時間の経過は長く感じる」というものがあります。

子供の頃は、見るもの聞くもの全てが新鮮で、毎日冒険でした。しかし、大人になるにつれて経験も増えて、過去の経験から予測出来るようになっていくため、新鮮と感じなくなってしまうのです。そうして、歳を取るにつれて、時の流れを早く感じてしまうのでしよう。ただ、そんな時に酒井阿闍梨の言葉が思い出されます。

「一日一生」  
朝起きる時に生まれ、寝るときにはその一生を終える。次の日には新たな一生がはじまり、またその一生は終わる。一日一日が全く新しい自分で、新たな人生を生きている。

そう考えると、歳を経て、心持ち次第では時間の経過も長く感じることが出来るかもしれません。

酒井阿闍梨は、千日回峰行という比叡山の峰を毎日毎日歩くという修行をされた方です。同じことを繰り返された行者です。毎日毎日、一日一日は新鮮であるということをおっしゃっております。これは、心持ち次第で毎日新鮮なものにも変わるし、退屈が変わらない一日にもなるということを示されております。そうすることによって時の流れを、幼子のように一日一日大切に生きることが出来るれば、あっという間に一年が過ぎてしまうこともできるようです。

日々是好日とも言いますが、一日一日を一所懸命に生きる。ことこそが、伝教大師の言う処の「一隅を照らす」ことに繋がるのではないのでしょうか。冬から春になる、この季節に改めて、人間にとって唯一平等な「時間」というものを考えなおしてみたいものです。

普賢寺の境内の梅が咲きました。綺麗な梅を見ることが出来る、ということ自体に感謝して生きていきたいものです。

## 天台宗ってどんな教え？

今回の特集は、普賢寺が所属する宗派である天台宗です。天台宗は平安時代(806年)に開かれた宗派で、日本の大乘仏教(生きとし生けるものが成仏できるといふ仏教)の中では、真言宗と並んで古い代表的な宗派です。歴史は古いのですが、数で見ると、日本寺院数は約77000ありますが、天台宗寺院は約3300カ寺です。少数派です。ただ、寛永寺、善光寺、深大寺、中尊寺などの名刹が多いことも特徴です。では、簡単に天台宗の特徴を3つに分けて紹介致します。

### 1. 朝題目夕念仏という実践

天台宗の正式名称は、天台法華円宗と言われるほど「法華経」を大切に宗派です。ただ、日本の天台宗は法華経だけでなく、様々な読経や行法を実施します。題目とは南無妙法蓮華経。念仏とは南無阿彌陀仏を指すことが一般的です。鎌倉時代に、その2つの系統の宗派に別れましたが、天台宗としては並んで重要なものであり、共存を大切にしております。

### 2. 円密禅戒という基台

この言葉は、天台宗の教えの特徴を端的に表す用語です。円：法華経(円は、法華経の如く偏りがなく完全無欠であるという理由から)

密：密教。護摩はこの密教の教えを実践しております。  
禅：止観と言って、安らかな境地に至るために坐ります。  
戒：日本仏教独自の戒律を作り、この戒律が日本仏教発展の礎にもなりました。

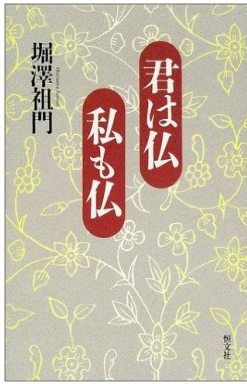
これらが、1200年続く日本天台宗の根幹です。修行の時に全て実施いたします。

### 3. ヒトづくりに

第二五三世 山田恵諦座主は、こんなことも仰っております。「比叡山には教えはありません、目標は、よき日本人をつくることにある。」天台宗の教えは深遠で高尚とも言われますが、実はとてもシンプルでもあります。伝教大師が遺された言葉に「一隅を照らす、これ即ち国宝なり」という言葉がありますが、一隅(自分自身がいる世界)を輝かせることが出来る人間を国宝と呼び、そのような一隅を照らす人が増えて、よき国になることが天台宗の一番の願いなのです。

天台宗とは幸せに生きるための生き方が凝縮されている教えです。

君は仏 私も仏  
著者：堀澤祖門  
出版社：恒文社  
出版日：2002/8/10



仏教関連のオススメの本を紹介  
します。

## 二の一冊！



### そもそも、なぜ焼香をするのか



今回は、皆さんが法事や葬儀、お寺への参拝で必ず行う「焼香」についてお話をいたします。

お香は、インドでは日常的に使われていますが、仏教においては3つのお香があると考えられています。

#### 1・戒香

常日頃、戒律を守り、実際の生き方を歩いている人によって焼かれるお香は、常に最上の香りになります。これが戒香です。

#### 2・聞香

お香には種々ありますが、それらの香りの本性を尋ねて、本質を知ることが聞香と言います。

#### 3・施香

そして、そのような清らかな生活と心を以って捧げることを施香と言います。

皆さまが普段されるお焼香は、この施香にあたります。

仏教では、香華灯明と言ってお香、お花、灯明の3つを大切にしております。どこの国のお寺に行ってもこの3つは欠かせない御供物となります。その中で、お香は形なく、すぐに消えてしまふので、仏教の教える処の諸行無常を会得するためのものとしてもみなされてまいりました。

そして、儒教文化と相まって、お香を捧げるということは儀礼としても大きな意味を持つようになりました。ご先祖様や周りの仏様に対して、焼香をすることによって供養をされているということなのです。

#### ■概要

比叡山に十二年間修行をされた祖門氏が、天台宗のエッセンスとご自身の体験をわかりやすく書かれております。

現代は、目を覆いたくなるような事件やニュースが多い社会になっており、閉塞感を感じざるを得ない世の中になってしまっております。そのような世界において、道標となるような教えが仏教、法華経には詰まっております。この本には、衆生本来皆、仏。という本質が書かれております。

#### ■著者紹介

堀澤祖門 (ほりさわ ともん)

現在、三千院門跡門主。京都大学入学後、比叡山にのぼり仏道を極めることを決意されて中退。その後、十二年間比叡山に籠り、世俗とは隔絶する十二年籠山行を満行。その後、インドを遍歴、ヨーガを学ぶ。後に、叡山学院院長に就任され、帰国後は、比叡山居士林道場、行院院長などを歴任され、人材教育に従事されている。

## 檀家総代紹介①

今回から2回(五十音順)に分けて、当山の檀家総代を務めて頂いております4名の方を紹介致します。彼岸や施餓鬼の受付をされておりますので、その際は、お話しして頂ければと存じます!



青柳智久 (あおやぎ ともひさ)

「先代の住職に智久の名前をつけてもらいました。小金井に住んでおりますので、何卒よろしく願います。」



石本隆章 (いしもと たかあき)

「ソメイヨシノ発祥の地駒込に住んでおります。近くに六義園 古川庭園があり良いところです。お寺で受け付けをお手伝いさせていただいてます。お越しの際お声を掛けてください。」

## Info

### 1. 法華大会

昨年10月、当山法嗣が法華大会広学堅義を無事遂業しました。法華大会とは、4年に1度行われる法華経の理解度を試す最終試験です。その証として、帽子の着用が許可されました。



### 2. 歳末たすけあい托鉢

昨年末、普賢寺としては青山、府中2回、浅草寺の計4回歳末たすけあい托鉢を実施しました。心豊かな社会になりますように。



### 3. 第4回目多磨霊園ツアー

民本主義の父「吉野作造」のお墓参りをします。3月13日(日) 15:00- 於普賢寺 会費1,000円 ご参加の方は、ご連絡ください。